

P.1 カンボジアの子どもたち Hope of Children ホープ・オブ・チルドレンの活動を紹介します。

P.2 ホープ・オブ・チルドレン Hope of Children という子どものための施設では、
26 人の小学生から高校生までの子どもたちが、共同生活を送っています。
代表はカンボジア人僧のムニさんです。日本人女性の岩田さんが、運営の中心になっています。

P.3 バッタンバンという場所にある施設で、大学生の人たちと 1 週間のボランティアをしました。

P.4 2024 年夏の訪問の様子です。子どもたちの多くは、親が育てられず、お寺に預けられました。

P.5 日本人の大学生ボランティアと一緒に活動する HOC の子どもたちです。

P.6 HOC での給食の様子です。給食はみんなでいっしょに食べます。
レストランで出てきたハーブやお花がたくさん、のったピザも食べました。

P.7 ポルポト派の時代の子どもたちの写真です。なぜ、家族と暮らせない子どもたちがいるのでしょうか。
カンボジアでは、今から 50 年ほど前の 1975～1979 年にポルポト派という独裁政権がありました。
その後、内戦は 1991 年まで続きました。
子どもたちは、ポルポトの考え方が正しいと教え込まれ、銃を打つ訓練を受けさせられました。

P.8 ポルポトたちは、農民が貧しいのは都市の豊かな人々のせいだと言いました。
農民を兵士にし、都市を占領して、都市の人たちに強制的に農業の労働をさせました。
学者や先生たちを悪者だとして、殺しました。
子どもたちは、親から切り離されて、集団で生活するようにさせられました。

P.9 これは HOC のあるお寺の写真です。今、生きている子どもたちも、50 年前の戦争の影響で、厳しい状況に置かれています。ポルポト時代とその後の内戦で、今のお母さん、お父さんたちが子どものころ、親を失ったり、学校が閉鎖されて行けなかったのです。そのために、多くの人がとても貧しくなっていました。
戦争はそのときも、50 年たっても、子どもたちを苦しめています。

P.10 今も、隣の国タイとの国境で紛争が起きています。戦争をやめることを決めましたが、
実際には戦闘が続いています。HOC には紛争地域からきている子どもが 11 人いて、
彼らの親の多くはタイに出稼ぎに行っています。みんな、とても心配しています。

P.11 平和は本当に大切です。今も世界のいろいろなところで戦争や内戦が起きています。
私たちは、今、起きている激しい戦争に目を奪われがちです。
しかし、今は平和になっていても、過去の戦争や内戦の傷跡はずっと残ります。
とくに、子どもたちへの被害は長く続きます。そうした取り残された子どもたちへの支援を忘れずに、
未来の平和のために、少しでも寄り添っていきたいですね。